UrbanDesignLab.Magazine
2016.12.8 vol.248

都市デザイン研究室 ２０１６年を振り返る
LAB. MEMBERS' LOOK BACK AT 2016

東京大学
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/

編集長：　黒本 剛史　　編集者：神谷 安里沙
編集委員：王 誠凱　中井 雄太　神谷 安里沙
田中 雄大　中村 慎吾　松田 季詩子

都市デザイン研究室 2016 年を振り返る

Teachers' Best Memories of 2016 / Projects of 2016

2016 年も残すところあと約 3 週間。一年中駆けまわる先生方に、今年も心に残った場所を伺いました。裏面では、今年の研究室活動を時系列で振り返ります。「家族」が一同に介するこの場で、今年を振り返りつつ、来年に向けて語り明かしましょう。

西村 幸夫 教授

学ぶべきことは山のようにある。

ー 2016 年を振り返って心に残った場所

イスタンブールのイスティクラル通り。今年の 10 月にイコモスの諮問委員会の際に訪れました。例のクーデター未遂事件の際、多くの市民が集結したタクシム広場から始まるイスタンブール新市街の背骨にあたる通りです。東京で言うと銀座通りというところか。事件直後はまったく人気がなかったらしいのですが、3 ヶ月たった 10 月には、人であふれかえっており、大都市の Great Street とはこのようなところだと思いました。人の生活の復元力の高さを実感した通りです。

ー 2017 年に向けて

私にとっては東大生活最後の 1 年なので、悔いのないように過ごしたいと思っています。しかし、それにしても学ぶべきことは山のようにある、というのが実感です。

ー 研究室の学生に一言

皆さんも悔いのないような 1 年にしてください。

中島 直人 准教授

それぞれの都市論を強く打ち出してほしい。

ー 2016 年を振り返って心に残った場所

7 月、オランダ・デルフトでの学会参加の帰りに、アムステルダム、コペンハーゲンをじっくり歩いてみました。2010 年以降、アメリカと中国には何度も出かけていますが、欧州は実はかなり久しぶりでした。訪ねた季節のせいもあってか、両都市とも水辺の光景に非常に刺激を受けました。とりわけ、週末のコペンハーゲンの水辺のパブリックライフの眩しさは衝撃的でした。どのような社会を目指すのか、とても大切なことが公共空間一つ一つに表明されていると感じました（水辺という点では研究室旅行で訪ねたバンコクの運河沿いの生活景もワクワクしましたね）。日本国内では、3 月に一人でひっそり訪ね、複雑な思いのもと眺めた釜石、気仙沼の復興風景が強く印象に残っています。3.11 の時期に痛感した無力感（都市計画が無力であったというわけではない、あくまで個人の問題）を忘れず、あの時期の選択の結果を日々受け止めつつ、自分のみちを進んでいこうと改めて誓った次第です。

ー 2017 年に向けて

今年の 8 月に 40 歳になりました。2017 年はまずは 30 代の仕事を総括する単著を出版する予定です。一方で、40 代の次なる「10 年間」の目標をしっかり見定めて（今考えているのは、１個人および組織両面での都市計画史研究の国際化とパブリック化、２都市デザインプロジェクトの実体的成果（目に見える場所の創出）、３全く新しい分野・領域の開拓）、その実現に向けた確かな第一歩としたいです。

ー 研究室の学生に一言

修士論文や博士論文を通じて、それぞれがそれぞれの都市論を強く打ち出してほしい。

中島 伸 助教

丁寧に大胆に物事を進めたい。

ー 2016 年を振り返って心に残った場所

今年何度か通った気仙沼の唐桑という半島の集落です。知り合いがたくさんできて行く度に元気をもらっています。被災に直面した後、個人の出会いとつながりが人を大きく変え、そんな人のつながりが世界をつくるのだと強く認識しました。

ー 2017 年に向けて

恥ずかしいのですが大げさに言うと今年は、自分のぼんやりとイメージしていた「世界平和と都市デザイン」という究極的な目標が様々な世の中の動きに翻弄され、多くのことを考えさせられた一年でした。オバマの広島来訪、イスタンブールやバングラディッシュでのテロ、IPHS での訪欧と次回 2018 年横浜大会の決定、研究室旅行での弔意に満ちたバンコク訪問、建築雑誌での復興連載担当や２回開催したアーバンキャンプなどなど。自分の無自覚さとは別にこれらはすべて自分の日常ともつながって影響を受けており、また自分もそれらとつながり、ささやかながら響きあうのだと改めて認識しました。今年はそれらに勇気を持って日々ちゃんとひとつひとつの活動をしようと思いました。来年もより一層丁寧に大胆に物事を進めたいと思います。

ー 研究室の学生に一言

まだ今年は終わっていない。

森 朋子 助教

役割を全うしたい。

ー 2016 年を振り返って心に残った場所

適切な答えではないかもしれませんが、東京大学本郷キャンパスです。今年、駒場から本郷に異動し、自宅も少し近くに引っ越しました。また、西村先生を中心に、本郷キャンパス計画の歴史を整理しています。ここは私たちにはありふれた日常空間ですが、来年で 140 周年を迎える史跡のような場所です。逆に言うと、私の日常は、毎月の WG 会議に大きく支配されているわけですが、本郷キャンパス空間とその変遷を正しく理解し、将来のキャンパス計画に繋げてゆく架け橋になるような本ができたらと、毎日コンドル像を拝みながら出勤しています。

ー 2017 年に向けて

来年度は西村先生のご退官という本当に大きな節目の年です。ネパールのカトマンズ・ルンビニでの２つのプロジェクト、そして先ほどのキャンパス計画など、先生の助手としての役割を全うしたいと思います。

ー研究室の学生に一言

私も自分の悪いところを変えたいと思ってはいても臆病になりますが、仕事に関しては違うように思います。私にとって仕事は、おおげさですが社会からのミッションであり、自己と切り離すことができる場であるのかもしれません。プロジェクトや研究を、こういう視点から捉えると、自分達のやるべき方向がより鮮明に見えてくるかもしれませんね。一緒に頑張りましょう。

永野 真義 助教

手を広げすぎず、しっかり腰を据えて取組む。

ー 2016 年を振り返って心に残った場所

長崎・大村湾のほとりに「邦久庵」という小住宅があり、再生に向けたお手伝いをしています。建築家・池田武邦氏が設計した庵ですが、彼は多数の超高層を設計した後、原点に立ち返り自然への畏怖や共生を大切に設計するようになったそうでその集大成とも言える作品です。池田氏は設計スタンスとして「わかりやすさ」を大事にしていて、この建物も写真にあるとおりシンプルな心地よさを持っています。この広縁に素直に感動したのが、９月の下旬。そこから「邦久庵倶楽部」の活動を始めたばかりですが、かなりの勢いでサポーターが増えていて、シンプルな心地よさをつくることの重要性を再認識。そうしていつも、都市工２年生の最初の演習「心地よい都市空間」に立ち返るのです。

ー 2017 年に向けて＆研究室の学生に一言

そろそろ「着任したばかり」から卒業して、プロジェクトやコンペを通じて研究室の皆さんと一緒に絵を描いていきたいと思います。特に学生の皆さんには論文のテーマに加えて「大学院時代は○○に取り組んだ」と明確に言えるものをひとつ持ってもらいたい。手を広げすぎず、しっかり腰を据えて取組む。その上でスピーディーに。そんな進め方が出来ればと思っています。一緒に頑張りましょう。

2016 年の軌跡

色々なことがあったこの一年。
来年につなげるためにちょっと一休み。

UD Lab.
研究室全体

1 Jan. → 4 Apr.

● 3/18　Farewell Party!!
● 4/14　プロジェクト報告会

5 May.

● 4/28　Welcome Party!!
● 5/31 さよなら駒場西村研
（秘書の鈴木さんが来ました）

6 Jun.

7 Jul.

● 7/31-8/5
UEHAS WS
● 8/1
暑気払い＆
永野助教着任

8 Aug.

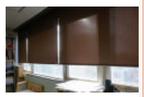
● 8/24-26 日本建築学会 in 福岡
● 8/24 高橋さん優秀論文賞受賞

9 Sep.

● 9/29 秋季修了者追いコン

10 Oct.

● 10/19
ロールプライ
インド設置



● 11/14-17 研究室旅行

11 Nov.

12 Dec.

● 12/8　忘年会

Pick UP

年内に松本調査報告書の総括・完成を目指し、早期に松本市の関係者方々に対して発表を行う予定

20c Urban Heritage
20c 都市遺産

急激な都市成長を遂げた 20 世紀に形成された市街地のうち、今後の人口減少・都市縮退の時代においても使い続けるべき市街地を評価し、理論化を目指す

● 3/14　渡辺先生とのミーティング　先生からの情報共有及び松本調査報告書の進捗報告が行われた
● 4 月　第 1 回全体ミーティング　松本市街地の定量評価手法を検討し、松本調査報告書の全体構成や目標を確認

● 6 月　報告書において、松本市街地の個別地区に関する定性評価を行う第 4 章が完成

● 7 月　松本調査と 20 世紀都市遺産研究の関係を確認し、報告書のアウトラインを確定

● 9 月
報告書の前半部分を構成する既往研究のまとめ、松本市の基本情報などをまとめる

● 10 月
報告書において、松本市街地の個別地区に関する定量評価を行う第 3 章を修正し、最新版 Ver1.6 が完成

● 11 月　報告書の各章を見直しつつ、松本調査から得た知見を総括する第 5 章を執筆

● 12 月　松本調査報告書を完成させ、学内外の関係者と共に議論し、修正する

年内に松本調査報告書の総括・完成を目指し、早期に松本市の関係者方々に対して発表を行う予定

Kathmandu
カトマンズ

2015 年のネパール大地震で被災した歴史的町並みを持つ集落保全に関する調査と提案を、日本の制度を参照しながら進める

● 1 - 3 月　昨年度事業の報告書作成

● 6/3-10　2016 年度第一回カトマンズ現地調査

● 7/24-25
輪島市・黒島地区視察

● 8 月　うきは市視察

● 9/1-8
2016 年度第二回カトマンズ現地調査・現地住民報告会

● 10/6-9　カトマンズ・シカリフェスティバル視察

● 11/25-12/3　2016 年度第三回カトマンズ現地調査

● -12/3　現地調査＆その後報告書執筆

報告書執筆に向けて、国内事例のまとめ、保存に関する思想の整理、調査のまとめとデザインガイドラインの作成を行う

Kanda
神田

地域資源を発掘・共有していくことで旧来の住民と新規居住者とをつなげる試みを行う。今年はファミリー層、子供に視点を向ける

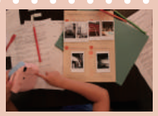
● 1/15　小藤田正夫様、佐藤賢一様による中神田五町会地区計画に関する勉強会

● 4/7　2015 年度の集大成「多町 Zine」完成・お披露目＆新入生　初の街歩き

● 5/3　2015 年度千代田まちづくりサポート最終発表会

● 7/2　千代田まちサポ審査会→助成決定

● 9/17
こどもまち探検
プレツアー開催



● 10/13　ワテラス講演会「『学生の目から見た神田』から神田の暮らしを考える」

● 11/5　こどもまち探検　本ツアー開催

● 11/19　まちサポ中間報告会

子供といっしょに成果物を作成し、地域に開かれた展覧会を開催す。また今年の活動を共有できる形で冊子にまとめる

Sawara
佐原

高校生と協力しながら歴史的町並みを持つ佐原で町家活用や多主体協働の場づくり等を行うと共に調査活動を行う

● 3/19　さわらぼ報告会
高校生から地元の方や行政に向けたまちづくりやさわらぼに対する提言
● 4/16　さわらぼ開き

● 6/5　さわらぼを拠点とした協働に向けたチーム結成と顔合わせ＆アイデア出し

● 6/24-25
佐原高校文化祭で活動紹介

● 7/15-16　夏の大祭
町家案内＆展示 @ さわらぼ

● 8 月末 - 9 月頭 さわらぼ OB が 1 週間さわらぼに常駐し、場づくり実験

● 9/4
さわらぼサポーターズ会議

● 10/7-9　秋の大祭にて調査内容展示＆アンケート調査
● 10/26　佐原市役所訪問
● 10/29-30　建物公開
町家案内 @ さわらぼ

● 11,12 月　勉強会・調査実施

高校生のアイデアの実現とさわらぼの協働化、勉強会と各種調査のまとめを行なう

Takashimadaira New
高島平

沿道の木々が重たく生い茂るプロムナードを中心とする公共空間の再編に関する調査・研究・提案を行います

● 4 月　プロジェクト報告会にて、中島直人先生による高島平 PJ の紹介

● 6/7　キックオフミーティング
● 6/12　第 1 回高島平プロムナード勉強会開催。住民の方とまちあるきやワークショップを行う

● 7 月　都市デザイン研マガジン 7 月号にて高島平 PJ 特集

● 9/7　高島平に関わる都市工メンバー全員でのミーティング
● 9/12　第 2 回高島平プロムナード研究会開催

● 10/3,25　ミーティングを行い、今年度の方向性を決定
高島平に関する文献の収集

● 12 月　都市工全体での、高島平ミーティング（忘年会）開催予定

オムニバス演習履修の 4 年生が加わる来年度に向け、歴史・都市空間の変遷等を文献調査によりしっかりおさえる！

Mikuni
三国

豊かな資源を有しつつも人口減少などの諸課題を抱える三国において、空き家の利活用を軸として課題解決及びまちの再生を図る

● 3 月　『三国まちづくりビジョン』制作
● 3/19　上記お披露目

● 5/19-21
三国祭参加
「まちなか休憩処 @ 三国祭」を実施

● 6/27　UDC 勉強会開催
● 8/8-11,26-31　空き家調査
● 8/27　帯のまち流し

● 9/17 西村幸夫町並み塾 in 三国
● 10/9　空き家巡りツアー「みにいくみくに」を開催

● 10/11　UDCK/UDC2 視察

当面は空き家調査の結果を分析しつつ、空き家活用に向けた社会実験を展開してゆく予定

Fukushima&Odaka
福島・小高

原発被災地の南相馬市小高区で、市の委託により協働の拠点「小高復興デザインセンター」を設立、実践を通じて復興ビジョンを描く

● 2/21　復興拠点施設 WS
● 2/27,3/6　高校生フィールドワーク
● 3/22　『まちなかプラン』市長へ提出・説明

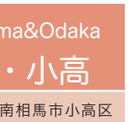
● 5/1　上浦・大富調査（随時　集落部の聞取り・実地調査）

● 高校生活動　住民インタビュー、図鑑化）

● 7/12　小高区避難指示解除
● 7/16　小高復興デザインセンター開所式
● 7/23-25
相馬野馬追見学

● 行政区懇談会（随時　各行政区懇談会に出席し課題発掘）

● 8/9　まちかど公園の設計
● 8/20-21
高校生視察研修
（石巻 / 女川）



● 9/6　まちなか部会（テーマ毎に主催する関係者会議）

● 10/15
小高秋祭り
高校生出店のサポート

● 10/26　つながり部会主催
● 10/27　小高の復興に向けた定例会主催
● 11/12　高校生市長提案
● 11/8,20　第一・二回災害リスク部会（放射線対策講話）
● 11/25　まちなか部会主催
● 12/15　つながり部会
● 12/19　第二回定例会

高校生 PJ/ 空き地利用 PJ 等実践，復興ビジョン策定，市復興計画への位置付け，各行政区の課題や実情に応じたプラン作成

◇◇その他プロジェクト◇◇

清水プロジェクト

清水港の歴史的資源である石造倉庫群に着目し、海辺のまちづくりのビジョンについて、2011 年度より調査、ワークショップ、社会実験等を行ってきました。今年度は、企業との提携に向けた提案づくりを他大学と合同で行い、今後の協力関係の形成に向けた準備を行っています。

大槌プロジェクト

現地では未だなお、仮住まいでの生活が続いています。窪田先生、黒瀬先生は 2011 年から現地に通い、大槌町から委託されて赤浜地区のコーディネーターを務め、復興計画策定に関わってきました。PJ では 2015 年度に引き続き、その過程を振り返り、記録、書籍化する試みを行っています。

守山プロジェクト

守山市に依頼され、市街地縁辺部の水田地帯 50ha を市街化するプランニングを検討しています。今年度は昨年度まとめた「デザインブック」の内容を市民と共有するため、設計事務所の方と、民間開発者のニーズを想定して模擬的に開発する試設計を行い、巨大模型で市長に提案しました。

◇◇個人参加プロジェクト◇◇

本郷プロジェクト

本郷の菊水湯廃業をきっかけとして、東大お膝元本郷の文化資源を記録し、守ろうとする新しい PJ です。都市工からは中島直人先生・小泉先生にもご参加いただき、東京文化資源会議の 1PJ として地元企業や建築グループなどと手探りながら動き始めています。

谷中プロジェクト

1 期生有志メンバーにより、昨年廃止方針が出された都市計画道路補助 92 号線沿いの建物高さや接道空間のあり方等の検討、台東区により今年度中に策定予定の谷中地区まちづくり方針案の提案活動などを行いました。

Information

次号 249 号 (第四回北沢先生特集号) は 12/22 発行予定です。
ご連絡・ご質問・メール配信希望は magazine@ud.t.u-tokyo.ac.jp まで。

UEHAS WS　in TOKYO

毎年バンコクと東京を交互に舞台として、それぞれの場所の学生が参加の元行われる交流ワークショップ。今回の舞台は東京。M1: 田中＆浜田＆三文字＆研究生 : 呉と Chulalongkorn 大学の学生たちは、田町 - 品川間新駅周辺の再開発に関する 6 日間のワークショップに参加しました。

研究室旅行 in Bangkok vol.247 Check !

研究室旅行はバンコク！　OB で Chulalongkorn 大学のポンサン先生の案内でバンコクを歩き通しました。

マガジン まち歩き

研究室マガジンの取材で様々な場所を訪れました

vol.242 Check ! 横浜国立大学の野原先生と学生と一緒に歩いた横浜

vol.246 Check ! 研究室 OB の菊地原さんを訪ねた甲府

予告 !! vol.249 特集号 Check ! 過去の研究室プロジェクトと北沢先生の足跡を辿る喜多方

編集長より

都市デザイン研マガジンは今年から、「より目に留まるマガジン」を目指し、毎月の A4 両面号＋季刊の冊子特集号での発行としました。研究室の「今」を伝えるより良いマガジンのため、企画案やご意見を頂けると助かります。

黒本　剛史

編集後記

神谷　安里沙

唐突ですが、私は今まで健康について意識することが無かったのですが、今年度に入ってから何回も体調を崩したり怪我をしてしまいました。学部生の頃は個人での設計課題しかやっていなかったので、もし多少具合が悪くて作業できなくても自業自得、と割り切っていたのですが、研究室に入ってからはプロジェクトで活動することが主になり、自分の不調のせいで周りの人に散々迷惑をかけてしまい、体調管理の必要性をひしひしと感じています。来年は酉年。鶏にあやかって早寝早起き、健康的に残りの修士生活を送りたいと思います。